

事業実施者：宮城県沖合底びき網漁業協同組合

使用船舶名：第37八興丸(105トン)

支援期間：平成29年2月1日～令和2年1月31日

(沖合底びき網漁業)

(取組の内容)

●集団操業

既存船と合わせ 10 隻を 3 グループに分け集団操業(代表船設置)、漁場の使い分けを行う。

●操業日数の短縮

操業日数を 180 日に短縮

●省エネ・省コスト化

バドックフロー船型・大口徑可変ピッチプロペラの採用、船内照明のLED化

●労働環境・作業環境の向上

居住区を上甲板に設置・ILO 基準を満たした居室設置・船首楼甲板上に波除板設置

●高鮮度販売・付加価値向上

魚艙内の温度管理の徹底、冷海水装置の導入により漁獲物の鮮度維持



(事業の成果)

●水深 200～300m帯と 500m 以深の漁場をローテーション操業し、資源を効率的に利用した。

●操業日数は 3 年平均 182 日となり所期の計画をほぼ達成できた。

●1 日当たりの燃油消費量は復興計画における新船目標値 3.35KL に対し、1 年目 3.34KL、2 年目 3.46KL、3 年目 3.42KL。 3 年平均 3.41KL で目標値をほぼ達成した。

●居住区を上甲板に設置・ILO 基準を満たした居室設置・船首楼甲板上に波除板設置したことにより、乗組員の安全確保・労働環境の改善、作業性・安全性の向上が図られた。

●冷海水装置の導入により漁獲物の鮮度維持が図られ、魚価の向上に繋がった。

平均販売単価 1 年目: 301 円/kg(既存船 292 円/kg、) 2 年目: 233 円/kg(既存船 217 円/kg) 3 年目: 139 円/kg(既存船 136 円/kg)